

- 1 **単元名** み力発見! 「和の文化」 ～調査報告をパンフレットにまとめよう～
教材名 「和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる」 東京書籍5年
他 和の文化について書かれた図書資料等

2 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方を理解することができる。 【知識及び技能】 (2)イ
(2) 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 B(1)エ
(3) 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 C(1)ウ
(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 情報活用実践力指導の観点

- (1) E 複数の情報の比較…情報カードを活用して、複数の情報の比較をする。(第3次)
(2) F 情報の関係付け…複数の情報を関係付けて、論理立てて文章を書く。(第2・3次)

4 単元設定の理由

(1) 単元について

本単元では、自分に関心をもった和の文化の魅力について図書・インターネットなどの資料で調べ、報告するために、パンフレットにまとめるという言語活動を行う。

本単元で使用する教科書教材「和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる」は、和菓子を題材に、和の文化について考え、受け継いでいく必要性を述べた文章である。序論・本論・結論の構成が明確で、本論では、「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」の3つの観点から説明されている。さらに、説明にあわせて写真や図表などの資料が用いられている。それらは、筆者の表現の工夫であり、児童が魅力を報告するためのパンフレットをまとめる際に生かすことができる。

教科書教材以外にも、和の文化について書かれた図書資料(『調べてみよう! 日本の職人の伝統のワザ1～6』[学研教育出版]、『伝統工芸(ポプラディア情報館)』[ポプラ社]など)が豊富である。児童が図書資料の中の様々な情報に触れることで、和の文化に対する興味・関心がより高まっていくことが期待できる。さらに、図書資料の中には図表などが含まれているものも多いため、それらを読み取ることで、教科書教材で身に付けた「文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付ける力」をさらに高めていくことができる。その他にも、インターネットのホームページの資料も多く、児童が情報収集するのに適している。

そして、それらの情報を収集し、そこからわかる事実を整理・分析しながらパンフレットにまとめていくことで、情報活用実践力を養うことができる。また、情報を整理・分析し、パンフレットにまとめることで、図表やグラフなどを用いたり、資料の文章を引用したり、情報と情報に関連付けたりする力を養うこともできる。

したがって、学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」(1)エ「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」こと、および、「C読むこと」(1)ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする」のにふさわしい学習である。

(2) 児童について

省略

(3) 指導にあたって

情報活用実践力の向上を図りつつ、本単元の目標を達成させるため、本校の4つの具体仮説に基づいて、以下の具体的な手立てを考えた。

○具体仮説Ⅰ「学習計画力」

①単元のゴールを示し、児童と共につくる学習計画

児童が、学習の見通しをもつことができるように、単元の導入で「和の文化のみ力をパンフレットにまとめよう～多くの人に伝えるために～」というゴールを示し、指導者のパンフレットのモデルを提示する。そして、調べたことをパンフレットにまとめるためにはどのような学習が必要かを児童との話し合いを通して共有し、学習計画を立てることで児童が主体的に学習を進めていくことができるようにする。

○具体仮説Ⅱ「情報収集力」(情報活用実践力E)

②観点を明確にしていく調べ学習

児童が見通しをもって情報収集できるようにするために、まず、教科書の3つの観点(歴史、ほかの文化との関わり、それを支える人々)を参考にして「どんなことを調べれば、読み手に興味をもってもらえるか」をイメージしてから情報収集するようにさせる。実際に情報収集する際は、新たに興味・関心をもったことも大切に、情報カードにまとめるように働きかける。そして、ある程度情報収集できた段階で自分の調べた情報を振り返る時間を設け、調べる観点を明確にしていき、内容を深めていく。

③整理・分析しやすくするための情報カードの活用

収集した情報を整理・分析しやすくするために、情報カードを利用する。情報カードのサイズは小さく(A6サイズ)し、児童が資料の情報を要約して書くことを意識したり、情報を俯瞰して見たりすることができるようにする。情報カードを整理する際には、観点ごとにまとめることができるポケットを用意しておく。また、児童が情報収集をしやすくするために指導者がブックリストを作成し、利用させる。

○具体仮説Ⅲ「情報整理力」

④見出しカードの活用(情報活用実践力E, F)

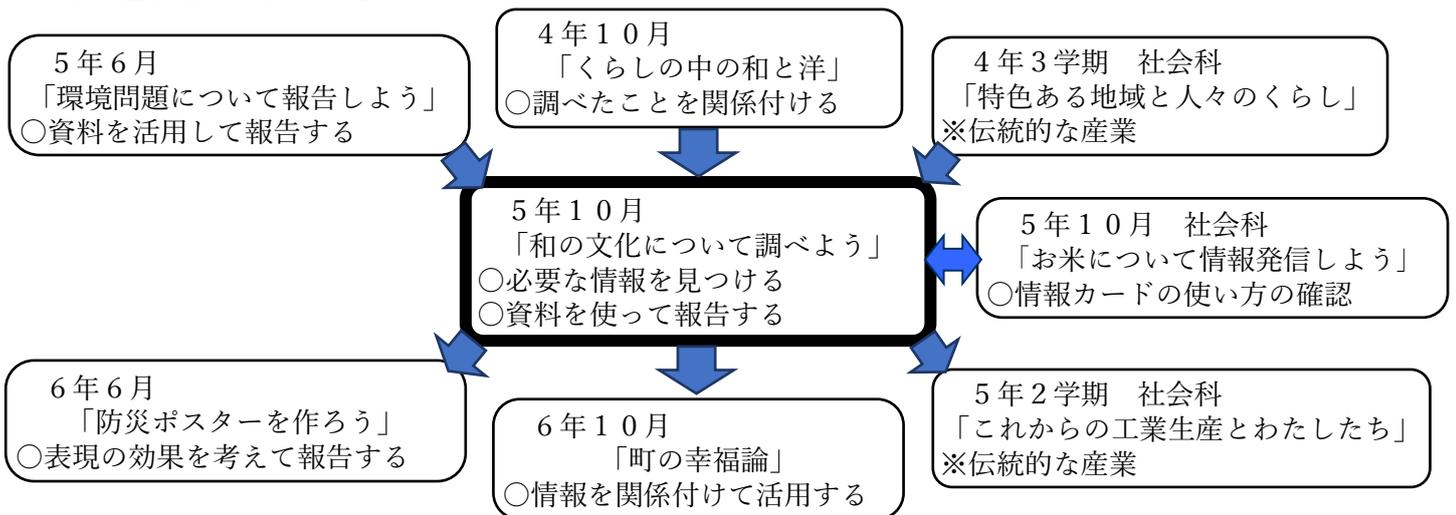
児童は、観点ごとに分類しながら情報収集していく。伝えたい内容をはっきりさせるために、必要な情報を取捨選択しながら、関係付けたり並べ替えたりして整理し、見出しを考える。

○具体仮説Ⅳ「文章表現力」

⑤相手・目的を意識した「表現の工夫」

「和の文化のみ力をパンフレットにまとめよう～多くの人に伝えるために～」というゴールを明確にし、和の文化の魅力を多くの人に伝えるという意識がもてるようにする。和の文化の魅力を多くの人に伝えるためには、「表現の工夫」が必要である。児童がパンフレットにまとめる際、表現を工夫できるようにするために、次の二つの手立てをとる。①教材文で筆者の表現の工夫(説明の構成や観点、効果的な図表の使い方など)を読み取る。②情報を整理して報告の文章を書いた後、構成や図表の使い方などの表現の工夫についてペアの友達との対話を通して、よりよい表現の工夫について話し合う。

5 系統性と他教科との関連



6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方を理解している。(2)イ	①「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。B(1)エ ②「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。C(1)ウ	①学習の見通しを持ち、自分の考えが伝わるように積極的に書き表し方を工夫し、パンフレットを作ろうとしている。

7 単元の指導計画と評価計画（全14時間 本時10/14時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
一 課題設定	1	○身の回りの「和の文化」について考えたり，指導者のパンフレットのモデルを見たりして学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元に入る前に，関連する図書の読書を進める。 ・身の回りの和の文化について興味をもつことができるように，和の文化についての動画や写真などを提示する。 ・学習の見通しをもつことができるように，教師のパンフレットのモデルを示す。 	
二 情報の収集	2 3 4 5 6	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「和の文化を受けつぐ」を読み，本文の文章構成を確認する。 ○本論を3つに分け，筆者の説明の観点を確認する。 <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○結論部分から，筆者の考えを読み取る。 ○3つの観点の構成の効果について考える <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本論Ⅰの本文と年表を比べながら読み取る。 ○筆者が用いている資料の効果について考える。 <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本論Ⅱの本文と写真を比べながら読み取る。 ○筆者が用いている資料の効果について考える。 <p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本論Ⅲの本文と写真を比べながら読み取る。 ○筆者が用いている資料の効果について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・序論，本論，結論の構成を考慮することができるようにするために，筆者が和菓子についてどのような観点から説明しているのかを手がかりにさせる。 ・3つの観点の構成の効果について考えることができるように，観点の順序を入れ替えて提示する。 ・説明の内容に合った資料を選ぶことの大切さに気付くことができるように，文章の内容と資料活用効果を板書で整理する。 	<p>【思考・判断・表現②】 発言・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論の進め方について考えることができるか確認 <p>【知識・技能①】 発言・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係付けの仕方を理解しているかの確認 <p>【思考・判断・表現②】 発言・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章と図表などを結び付けるなどして，必要な情報を見付けることができるか確認
三 情報の収集 整理・分析	7 8 9 10 (本時) 11 12 13	<p>7 8 9</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べる和の文化を一つに決め，情報収集の見通しをもつ。 ○和の文化の「魅力」について情報を集める。 <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べた「和の文化」の魅力について伝え合う。 ○情報を選んだり組み合わせたりして観点ごとに見出しを付ける。 <p>11</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パンフレットの構成を考える。 ○パンフレットに必要な資料を考える。 <p>12 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パンフレットの構成に沿って，報告の文章を書く。 ○作成した報告の文章をペアで読み合い，助言や意見を出し合い，修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の3つの観点を参考にし，見通しをもって調べられるようにする。 ・和の文化の「魅力」について情報収集していく中で，観点をより明確にしていく。 ・伝えたい情報を選択できるように，観点ごとに「和の文化」の魅力について交流させる。 ・パンフレットの内容を明確にすることができるように，観点ごとに見出しを付けさせる。 ・パンフレットの構成を考慮することができるように，前時の見出しカードを手がかりにさせる。 ・パンフレットに必要な資料を考慮することができるように，教材文の資料の効果について想起させる。 ・説明の順序や資料の効果を考えながら文章を書くことができるように，指導者のモデルを提示する。 	<p>【思考・判断・表現②】 情報カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章と図表などを結び付けるなどして，必要な情報を見付けることができるか確認 <p>【思考・判断・表現①】 見出しカード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点ごとの情報を選択・整理しながら見出しを考える活動を通して，自分の伝えたい魅力を明確にしているかの確認 <p>【思考・判断・表現①】 構成表，パンフレット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているかの確認 <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 振り返りの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが伝わるように積極的に書き表し方を工夫し，パンフレットを作ろうとしているかの確認
四 まとめ	14	<ul style="list-style-type: none"> ○完成したパンフレットを読み合う。 ○単元で学習してきたことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習を振り返ることができるように，必要な情報を見付けることができたか，資料を使って説明できたかなど，振り返りの視点を設ける。 	

8 本時の学習

(1) 目標

観点ごとの情報を選択・整理して見出しを考える活動を通して、自分の伝えたい魅力を明確にすることができる。

【思考力、判断力、表現力等①】

(2) 展開 (10/14)

時	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (・) と支援 (◎)
3分	1 本時のめあてを確認する。 「和の文化」のみ力が伝わる見出しを考えよう。	・学習計画や指導者が作成したパンフレットを提示し、本時の学習の見通しがもてるようにする。
5分	2 情報の選択・整理の仕方を全体で確認する。 ①調べた和の文化の紹介をする。 ②観点ごとに情報を整理し、見出しを考える。(その見出しを付けたわけや思いも書く)	・指導者が「熊野筆の種類」の情報カードを提示し、児童によさや魅力、知ってほしいことを伝える。 ・似た内容があれば、組み合わせたりまとめたりしながら、伝えたい内容にあった情報カードを選ぶことを確認する。 ・全体で、伝えたい内容にあった見出しを考える場を設ける。 ・見出しカードには、見出しとその見出しを付けたわけ(思い)も書くように伝える。
2分	3 情報を整理して見出しを考える。 ①調べた和の文化の紹介をする。(ペア) ・「和紙」とは、日本で古くから作られてきた紙のことだよ。 ・「和紙」は、無形文化財に登録されているんだよ。	・調べた和の文化がどんなものかをペアの友達に伝えることで、調べた内容を再確認できるようにする。
15分	②観点ごとに情報を整理し、見出しを考える。(個人) ・この情報カードとこの情報カードの内容は一緒だな。 ・この情報カードの内容が、一番魅力を伝えられる。この情報を選ぼう。 ・見出しは「これも和紙！」にしよう。わけは、ドレスやペンケース、マスクなど様々なものに使われていることが魅力的だから。	・情報カードを整理しながら見出しを考えられるようにするため、見出しカードを準備する。 ・早く終わった児童は、できた見出しカードを掲示して、友達同士で見合えるよう声をかける。 ◎見出しが考えられない児童に対しては、情報カードに書かれている特に伝えたいキーワードに目を向けるように声をかける。
15分	③ペアの友達と見出しについて話し合う。(ペア) ・「これも和紙！」という見出しは、どんなものに和紙が使われているか知りたくなるからいい見出しだね。 ・「無形文化財」という見出しに、「島根にもある」を付けてみたらどうかな。	【思考・判断・表現①】見出しカード ・観点ごとの情報を選択・整理しながら見出しを考える活動を通して、自分の伝えたい魅力を明確にしている。 ・できた見出しをペアの友達に紹介して、伝えたい魅力が読み手に伝わる見出しになっているかをアドバイスし合うように声をかける。 ・紹介するときは、「①情報カード②わけ(思い)③見出し」の順番で伝えるように確認する。 ・参考にした資料を使いながら説明してもよいことを確認する。 ・アドバイスをもとに適宜見出しを修正していくように声をかける。
5分	4 ノートに振り返りを書く。 ・ペアの友達と話し合っただけ見出しを考えることができた。 ・情報カードを選んで整理したら、構成がはっきりしてきた。 ・見出しを考えたら、パンフレットの内容がはっきりした。	・早く終わった児童は、別の友達と話し合うようにする。 ・児童がパンフレットのイメージをもてるように、教師がパンフレットのモデルを示しながら自分が決めた見出しを振り返らせる。

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
観点ごとの情報を選択・整理しながら見出しを考える活動を通して、自分の伝えたい魅力を見出しと対応させて明確にしている。	観点ごとの情報を選択・整理しながら見出しを考える活動を通して、自分の伝えたい魅力を明確にしている。	見出しが考えられない児童に対しては、情報カードに書かれている特に伝えたいキーワードに目を向けるように声をかける。

(4) 研究の視点

- 必要な情報を取捨選択しながらパンフレットの見出しを考えたことは、自分の伝えたい魅力を明確にする上で有効であったか。
(具体仮説Ⅲ「情報整理力」)
- 和の文化について、関連図書資料で調べたことは、自分の伝えたい魅力を多面的に捉え、より明確にする上で有効であったか。
(図書館活用の視点)

9 研究協議の概要

参加者	校内12名、校外10名 計22名
授業及び研究協議の概要	観点ごとの情報を選択・整理して見出しを考える活動を通して、自分の伝えたい魅力を明確にする授業を行った。研究協議では、見出しに用いる言葉について考え、ペアで話し合うことで、伝えたいことをはっきりさせることができていたという意見があった。